

平成24年度 事業報告

I 一般事業

- ・高齢期の「健康」「生きがい」「安心」「住まい」の4分野に関する調査研究活動を実施し、地域住民や地域関係諸機関等への情報提供により社会貢献活動を行いました。
- ・介護福祉士等を目指す専門学校生等へ引き続き奨学金助成を行いました。

1. 調査研究事業

- (1) 地元行政機関等と連携した地域住民への4分野に関する情報提供
 - ・奈良県及び河合町と連携して、3月に「口腔ケア」と「アンチエイジング」をテーマにした講演会を健康フォーラムとして開催しました。
 - ・松戸市立福祉医療センターと連携し、「リハビリテーション」、「ホスピス緩和ケア」をテーマとした市民公開講座を年2回（6、11月）開催しました。
- (2) WAC事業*の展開の中で4分野に関するノウハウ・スキルの研究と成果の関係諸機関への情報提供
 - ・高齢社会における安心なまちづくりに向け、高齢化率の高い地域における住民の見守りあい体制のあり方に関して、10月から松戸市梨香台団地を事例とした実践的研究（期間2年）を開始しました。
 - ・奈良施設、松戸施設の各職場内で、高齢者への提供サービス等に関する調査研究及び発表会（園内学会）を開催、その研究成果について地域住民や関係諸機関へ情報提供を行いました。
（聖隷福祉事業団及び日本老人福祉財団との共同研究）

* WAC(ウェルエイジングコミュニティ)事業:

平成元年に厚生省(現.厚生労働省)が「ふるさと 21 健康長寿のまちづくり事業」としてスタートさせた施策で、地域で暮らす高齢者が健康で安心し、生きがいを持って暮らせるまちづくりをめざして、地域全体に社会生活サービスを提供するために、健康・福祉施設を総合的に整備する事業

- (3) 地域住民への4分野に関する情報提供活動の実施
 - ・11月の「介護の日」に奈良施設、松戸施設内でイベントを開催し、地域高齢者及びその家族に対して、介護・医療・福祉の知識向上に向けた取り組みを実施しました。
 - ・奈良施設、松戸施設各々で「高齢期の暮らし」をテーマに講演会を開催し、高齢期のすまいの選択肢のひとつとして有料老人ホームを核としたまちづくり施設の情報提供に努めました。

2. 助成事業

- ・介護マンパワーの育成を支援する観点から、介護福祉士、理学療法士、作業療法士を目指す専門学校生等への奨学金助成を行いました。
- ・1人当たり助成金は年間24万円(月2万円)、年間助成対象者は50人です。これまでの累計助成者数は546人となりました。

II 特別事業

- ・「利用者へのサービスの質の向上」「人材の育成」「経営基盤の安定化」「リスク管理の向上」「環境・省エネの取り組み強化」を重点目標として、WAC事業の基本理念である「地域社会との連携・交流」を基本に、奈良県・河合町及び千葉県・松戸市を中心とする施設立地エリアにおいて、まちづくり事業を展開・推進しました。

1. 奈良事業（厚生労働省WAC認定事業:H2.10.17付）

- (1) 疾病予防運動センター（WAC第1号施設） 【ニッセイ・アーク西大和】
 - ・エンダモロジー、パーソナルトレーニングを新しく導入、またスタジオ、プールプログラムのクラスを増設し、より利用者ニーズに対応した施設づくりに取り組みました。
 - ・元オリンピック水泳競技選手、元エアロビク競技世界チャンピオンを招いてのイベントを開催し、利用者の運動意欲向上と地域住民への施設認知度向上に努めました。
 - ・シルバー教室として上牧町に月1回スタッフ派遣し、健康づくりの出張指導を実施しました。
- (2) 診療所（WAC第1号付置施設） 【ニッセイ聖隷クリニック】
 - ・CT装置更新に併せて画像サーバー等も更新し、画像部門のフィルムレス運用や心電図検査のペーパーレス運用を開始しました。また、酸素配管整備や床・壁の張替え、省エネ照明へ交換、転倒・褥瘡対策のベッド周辺備品整備等、環境面やケアサービス面での充実を図りました。
 - ・新規入居者増加で、外来の入居者受診数は過去5年で最も多く、健診部門も特定健診や事業所健診の増加により、昨年実績を上回りました。
- (3) 高齢者総合福祉センター（WAC第2号施設） 【ふれあいプラザ】
 - ・町文化会館大ホールでの20周年記念イベント、展示会、出張講座、園連携イベント等を開催し、地域にむけた情報発信・交流の場の提供、高齢者の生きがいづくりのためのサービス提供を推進しました。
 - ・文化教養講座参加者997人、コンサート・イベント参加者2,585人と過去最多の参加者数となりました。
- (4) 在宅介護サービスセンター〔訪問介護、福祉用具貸与・販売事業〕
（WAC第3号施設） 【ニッセイせいらい在宅介護サービスセンター 西大和店・奈良店】
 - ・西大和店では、利用者数は予算未達でしたが、介護報酬の増加などにより、事業収益においては、予算・昨年度実績を上回る結果となりました。奈良店では、利用者数は予算どおり推移しましたが、生活援助の時間減少が影響し、利用時間数は予算未達となりました。

- (5) 訪問看護ステーション [訪問看護事業] (WAC 第 3 号関連施設) 【 訪問看護ステーション西大和・奈良 】
- ・西大和店、奈良店とも、利用者ニーズに沿ったサービス提供に努め、他事業所との連携強化を図り、利用者数、訪問件数とも予算を上回りました。

- (6) ケアプランセンター [居宅介護支援事業] (WAC 第 3 号関連施設)
- 【 ニッセイせいいいケアプランセンター西大和、ニッセイせいいい在宅介護サービスセンター ベル西大和店・奈良店 】
- ・ケアプランセンター西大和では、入院、入所等の影響によりケアプラン作成数が減少しました。
 - ・在宅介護サービスセンター ベル西大和店、ベル奈良店とも、ケアプラン作成数が対前年増加となりました。

- (7) 有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC 第 4 号施設) 【 奈良ニッセイエデンの園 】
- ・一般居室の募集計画 23 戸に対し、実績 26 戸と予算を上回る一方、退去戸数は 14 戸にとどまり、空室数は 13 戸と対前年 4 戸減少しました。その結果、年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は 385 戸(総戸数 408 戸に対し入居率 94.4%、入居者数 480 人)となりました。

(一般居室 349 戸 / 362 戸 (入居率 96.4%)、介護居室 36 戸 / 46 戸 (入居率 78.3%))

- ・入居者の平均年齢は 81.5 歳(男性 81.1 歳、女性 81.7 歳)となり、前年度比 0.3 歳増となりました。
- ・総入居者数 480 人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末 128 人(27%)となりました。
- ・サービス提供の施設方針としてパーソン・センタード・ケアの考え方に基づくケアの実践を意識し、利用者視点に立ったサービス提供を心がけました。開園 20 周年を機として、介護居室増室および共用棟改修などの環境整備を行いました。また、食事サービスの質向上と運営の効率化を目指し、食事委託業者の見直しを実施しました。
- ・地域交流については、地域連携グループが中心となり地域向け出張介護講座の開催やエコフリーマーケット(売上は河合町社会福祉協議会に寄付)への参加、「介護の日ふれあいフェスタ」を開催するなど、地域に根差した活動を行いました。
- ・省エネ・資源循環活動の取り組みについては、利用者とともにエコキャップ回収活動を継続し、また、照明 LED 化等の節電対策を実施し、デマンドコントロール(使用電力監視装置)の設置により、使用電力の削減(600Kw から 560Kw へ契約変更)を図りました。社会貢献活動として「大和川一斉清掃」のボランティア活動にも参加しました。

- (8) 介護老人保健施設 [介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所療養介護] (WAC 付帯施設)
- 【 奈良ベテルホーム 】
- ・地域で施設利用を希望する利用者ニーズに対応し、利用者確保を最重要課題として取り組みました。入所、通所とも利用者数が伸びず、利用者数は予算を下回りました。
 - ・ボランティアとの懇親会(年 1 回)、地域との交流(介護教室・河合第三小学校への講師派遣及びベテルホームへの訪問)、広報誌の発行(3 回)、20 周年記念夏祭りの開催等、地域連携を深めました。

2. 松戸事業 (厚生労働省WAC認定事業:H6.12.15 付)

- (1) 疾病予防運動センター (WAC 第 1 号施設) 【 ニッセイセントラルフィットネスクラブ 松戸 】
- ・地域に密着したクラブづくりを目指し、利用者の視点に立った運営の徹底を行ないました。具体的には、少人数でのエクササイズを重視し、本格的な「サーキットトレーニング」新設等のメニューの拡大を図り、退会率 2.7% で運営することができました。
 - ・学校教育でのダンス必修化に合わせ、10 月より「キッズダンススクール」をはじめました。

- (2) 診療所 (WAC 第 1 号付置施設) 【 松戸ニッセイ聖隷クリニック 】
- ・診療所長が交代となり、一時的に外来患者数は減少したものの下半期では回復しました。また、痛み外来や形成外来の新設により、QOL(生活の質)を高める診療につながったほか、患者数及び診療単価の向上にもつながりました。定期・簡易健康診査の受診促進の取り組みも継続しました。

- (3) 高齢者総合福祉センター (WAC 第 2 号施設) 【 ニッセイ松戸アカデミー 】
- ・地域交流及び高齢者の生きがい増進にかかわるサービスの提供など従来からの取り組みに加え、東日本大震災の記憶を風化させないための報道写真展を日本経済新聞社と共同開催するなど、新たな取り組みを実施し好評を博しました。
 - ・入居者による「子供工作教室」は、実際の作業に加え、参加する子供たちとの交流が生きがい増進に大きく寄与し、新たな世代間交流の形を模索することができました。(年 9 回開催)

- (4) 在宅介護サービスセンター [訪問介護事業] (WAC 第 3 号施設) 【 ニッセイエデンヘルプステーション 】
- ・前年度からの継続的な医療機関や居宅介護支援事業所への営業活動により、新規利用者がコンスタントに確保でき、大幅な収支改善につながりました。
 - ・地域見守り体制構築のために、近隣開業医と共同して「あんしん電話」を 2 年間の予定で試行を開始しました。また、隣接の松戸愛光園在宅部門(居宅介護支援・通所介護)と連携し、情報紙の配布や「いきいき介護フェスタ」での相談コーナー設置など、地域に根ざした PR 活動も行いました。

- (5) 有料老人ホーム [特定施設入居者生活介護事業] (WAC 第 4 号施設) 【 松戸ニッセイエデンの園 】
- ・週刊誌の有料老人ホームランキングで全国第一位の評価を得たことで好調な募集活動が展開できました。年度末の介護居室を含めた入居契約戸数は 344 戸(総戸数 352 戸に対し入居率 97.7%、入居者数 434 人)となり、一般居室の募集実績 17 戸と予算を達成したほか、申込み件数を加えると空室数ゼロとなりました。(一般居室 311 戸 / 315 戸 (入居率 98.7%)、介護居室 33 戸 / 37 戸 (入居率 89.2%))
 - ・入居者の平均年齢は 83.1 歳(男性 83.3 歳、女性 83.0 歳)となり、前年度比 0.6 歳上昇しました。
 - ・総入居者数 434 人のうち要介護等認定者数(割合)は、年度末で 111 人(26%)となりました。
 - ・看取り看護・介護の充実を図り、一般居室での看取りも実施しました。
 - ・食事提供では、4 月より委託業者が変更となりソフト食の充実やアラカルトメニューの拡大などサービス向上を図りました。